U.S. Indicators

発表日：2022 年 3 月 25 日（金）

米国 ロシア経済制裁も感染鈍化で加速(3 月PMI)

～経済成長の再加速を示唆～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治（TEL：050-5474-7493）

22 年３月のマークイット米国総合購買担当者指数（ＰＭＩ）の速報値は、58.5（前月 55.9）と前月比 2.6％ｐ上昇した（拡大縮小の分岐点 50）。製造業が 58.5 と前月比 1.2％ｐ上昇したほか、サービス業が 58.9 と前月比 2.4％ｐ上昇し、全体を押し上げた。ウクライナに軍事侵攻を行っているロシアに対して２月末から経済制裁を段階的に実施しているが米経済への影響は限られ、オミクロン変異株による感染の減少やワクチン接種の進展を受けた規制緩和等を背景に加速した。供給制約の強いもと、新規受注、生産などが高い水準を維持、企業活動がより活発化している。また、労働力不足が懸念される中、３月の雇用指数が上昇しており、３月民間雇用者の増加ペース加速を示唆している。

ＰＭＩの基調は、労働力不足、サプライチェーンの問題、オミクロン変異株による感染拡大等によって、昨年の高い水準から低下傾向にあったが、供給制約の緩和や新型コロナウイルスの感染症関連の規制緩和によって米経済成長の再加速の動きが出ている。

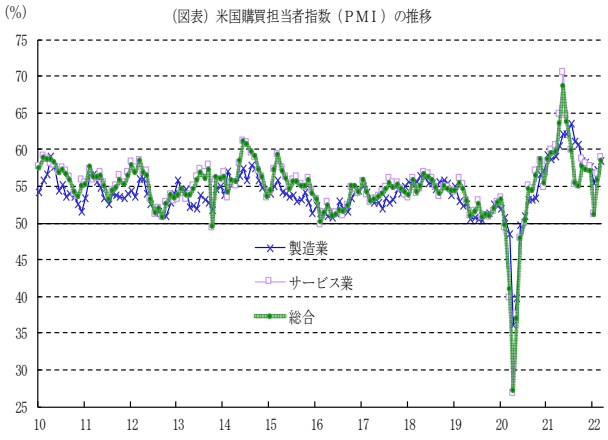
インフレに関して、産出価格指数では製造業、サービス業ともに高い水準にとどまっており、インフレ圧力の強い状態が続いていることを示している。また、投入価格指数では製造業が低下していたが、高い水準にとどまっているほか、サービス業の上昇に歯止めがかかっているが、高止まりを続けており、インフレ低下の兆しはみられない。

製造業ＰＭＩの構成項目をみると、新規受注が 58.0（前月 57.8）、生産が 56.5（前月 52.5）、在庫が 55.4（前月 53.4）、雇用が 53.7（前月 52.5）と上昇した。寄与度では、入荷遅延が前月比▲0.53％ｐの押し下げ寄与となった一方、生産が前月比＋1.01ｐｐ、雇用が前月比＋0.24％ｐ、在庫が前月比＋0.20％ｐ、新規受注が前月比＋0.05％の押し上げ寄与となった。また、構成項目以外では輸出受注が 54.6（前月 54.2）と高い水準を維持しており、米輸出の加速を示している。

サービス業では、活動指数が 58.9（前月 56.5）、新規受注が 59.8（前月 57.5）、雇用が 56.4（前月 55.1）と高い水準に上昇した。また、見通しを示す「将来の活動指数」が 72.4（前月 77.9）と高水準を維持しており、企業の先行きに対する楽観的な見方は強いままである。

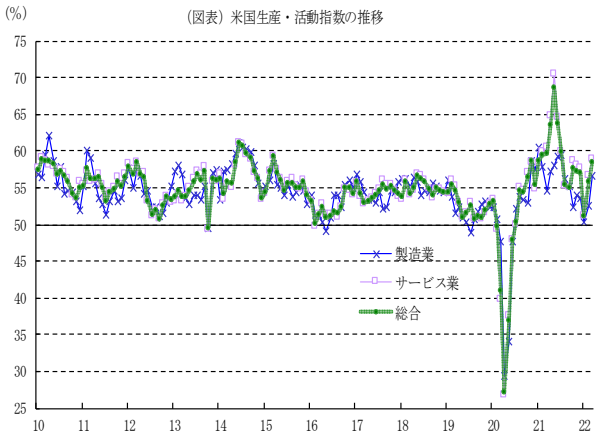
四半期では、１－３月平均で製造業が 57.1 と 10－12 月期の 58.1 から鈍化したほか、サービス業が 55.5 と 10－12 月期の 58.1 から低下した結果、総合指数が 55.1 と 10－12 月期の 57.3 から 2.2％ｐ低下しており、22 年１－３月期の実質ＧＤＰ成長の減速予想と一致した動きとなっている。

（図表）米国購買担当者指数（ＰＭＩ）の推移



（出所））IHS Markit

（図表）米国生産・活動指数の推移

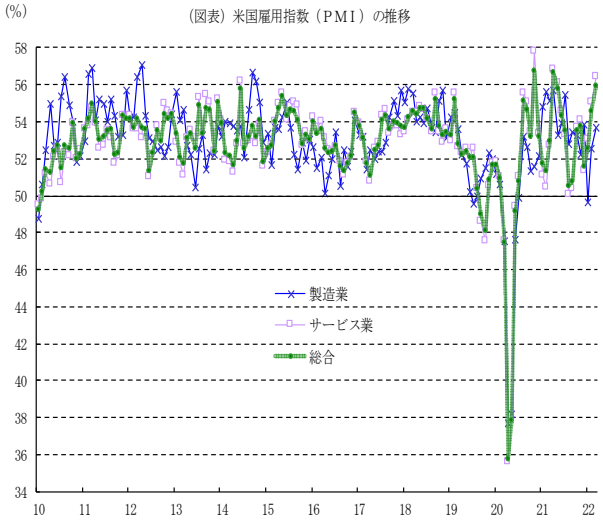


（出所））IHS Markit

（図表）米国新規受注指数（ＰＭＩ）の推移

（出所））IHS Markit

（図表）米国雇用指数（ＰＭＩ）の推移



（出所））IHS Markit

（図表）米国産出価格指数（ＰＭＩ）の推移

（出所））IHS Markit

（図表）米国投入価格指数（ＰＭＩ）の推移

（出所））IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。